

ユースケース・コンパス Compass シリーズ ユーザーガイド

第 2.1 版

ネクストデザイン株式会社
<http://www.nextdesign.co.jp>

目次

1. Compass の目的	4
2. Compass シリーズについて	5
2.2 Compass Light	5
2.3 Compass Pro	5
3. Compass Light のインストール、起動、アンインストール	6
3.1 必要なソフトウェア	6
3.2 インストール	6
3.3 起動	6
3.4 アンインストール	6
4. Compass Light のデータ管理と複数ユーザーでの利用	7
4.1 データ管理	7
4.2 複数ユーザー利用	7
5. Compass Pro のインストール、起動、アンインストール	9
5.1 必要なソフトウェア	9
5.2 インストール	9
5.3 起動	10
5.4 アンインストール	10
6. Compass Pro のデータ管理と複数ユーザーでの利用	11
6.1 データ管理	11
6.2 複数ユーザー利用	11
7. Compass 設定ファイル	12
7.1 compass.bat	12
7.2 compass.properties	12
7.3 setenv.bat	12
8. Compass で使用する用語	13
8.1 プロジェクト	13
8.2 パッケージ	13
8.3 ユースケース	13
8.4 アクターグループ	13
8.5 アクター	13
8.6 事前条件	13
8.7 事後条件	13
8.8 シナリオ	13
8.9 主シナリオ	13
8.10 副シナリオ	14
8.11 パス	14
8.12 ステップ	14
9. Compass ユースケースの構成	15
10. 操作概要	16
10.1 番号について	16

10.2 プロジェクト名を編集する	16
10.3 パッケージ名を編集する	16
10.4 アクターを追加する	16
10.5 ユースケースを追加する	16
10.6 アクターを設定する	17
10.7 事前条件を追加する	17
10.8 ステップを追加する	17
10.9 事後条件を追加する	17
10.10 副シナリオを追加する	17
10.11 代替パスを追加する	17
11. ダイアログメッセージの意味と対応	18
11.1 「ライセンスの期限が切れました。」	18
11.2 「ライセンスがありません。」	18
11.3 「データのバージョンが違います。」	18
11.4 「java.io.IOException.」	18
11.5 「このアクターは使用されています。」	18
11.6 「同じユースケースは包含できません。」	18
11.7 「同じユースケースは拡張できません。」	19
11.8 「同じ名前のプロジェクトが存在します。」	19
11.9 「同じ名前のアクターが存在します。」	19
12. ステータスバーメッセージの意味と対応	19
12.1 「選択されたオブジェクトの数 : 」	19
12.2 「終了処理中です.....」	19
12.3 「処理中です.....」	19
12.4 「保存中です.....」	20
12.5 「このパッケージに含まれているユースケースの数 : 」	20
12.6 「このユースケースに含まれているシナリオの数 : 」	20
12.7 「このシナリオに含まれているパスの数 : 」	20
12.8 「このパスに含まれているステップの数 : 」	20
12.9 「このアクターグループに含まれているアクターの数 : 」	20
12.10 「この事前条件に含まれている条件の数 : 」	20
12.11 「この事後条件に含まれている条件の数 : 」	20
13. ログ情報	21
14. ライセンス	21
15. バージョン情報など	21

※本書の内容は予告なく変更されることがあります。

1. Compass の目的

Compass の目的は、オブジェクト指向開発の全フェーズにおいて利用可能で、かつ簡潔なユースケースモデルを作成することです。(Compass では、ユースケース記述を含むユースケースの集まりで、システムのある側面を現したものをユースケースモデルと呼びます)

ユースケースは、楕円形のアイコンとしてUMLの中で定義されており、ユースケース一覧などとして利用する場合には全く問題はありません。しかし、システム開発で使用する情報としては詳細が不足するため、実際には、ユースケース図の他に、ユースケース記述を作成します。これまで、ユースケース記述の専用ツールは少なかったために、一般の表計算ソフトや文書作成ソフトで代用するケースがほとんどでした。しかし、このことが、ユースケースの活用を妨げてきたと考えられます。

例えば、ユースケース記述は従来のドキュメントと似ているために、従来の延長線上(考え方)で作成が開始され、最初にすべてを詳細に書き尽くそうとする傾向があります。また、作成に使うツールが使い慣れたものであれば、この傾向が一層強くなり、その結果、参照の容易性と一覧性に欠ける多量の文書が作成されることになります。更新も容易ではないため更新されず、すぐに過去の情報となり、開発プロセスの中では活用されなくなっていました。

Compass を使用することで、冗長な記述を抑え、更新と参照が容易なユースケースモデルを作成できるようになり、繰り返し開発の中で洗練しやすくなるため、ユースケース駆動で開発できるようになります。さらに、将来のバージョンでは、ユースケースモデルをオブジェクト分析や進捗管理、見積管理にも活用するための機能追加が予定されています。

2. Compass シリーズについて

Compass シリーズには、2つのタイプがあります。

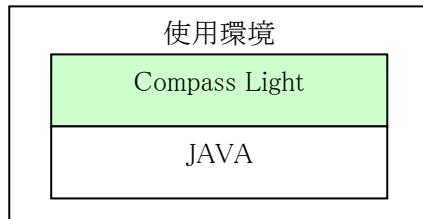
(1) Compass Light

(2) Compass Pro

基本的な機能は同じですが、データの相互移動はできません。

2.2 Compass Light

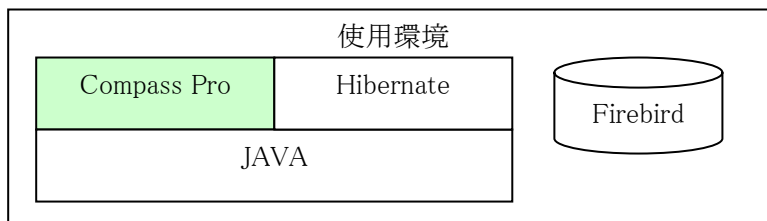
JAVA の実行環境があれば使用できる軽量タイプです。



2.3 Compass Pro

永続化ストレージに RDBMS を使用するタイプです。

RDBMS として Windows 用無償ソフト RDBMS の Firebird が必要です。(注1)



(注1) Firebird 以外の RDBMS 利用についてはお問い合わせください。

3. Compass Light のインストール、起動、アンインストール

3.1 必要なソフトウェア

- (1) Compass Light 本体 (jp-co-nextdesign-compass.lzh を <http://www.nextdesign.co.jp/> から入手)
- (2) JAVA1.4.2 以降 (<http://java.sun.com/> から入手)

3.1.2 動作確認済みの環境

- (1) Windows XP Professional SP1 + JAVA 1.4.2_04
- (2) Windows 2000 SP4 + JAVA 1.4.2_04

3.2 インストール

- (1) jp-co-nextdesign-compass.lzh を任意の場所に解凍します。
- (2) jp-co-nextdesign-compass¥bin¥setenv.bat を、テキストエディタで編集します。
この作業は、コンパスを C:¥jp-co-nextdesign-compass 以外の場所に置いた場合に必要です。
テキストエディタで setenv.bat を開き、次の場所を変更してください。

```
rem -----  
rem (1) COMPASS_HOME を設定 ここを変更してください！ 変更箇所(1／1)  
rem -----  
set COMPASS_HOME=C:¥jp-co-nextdesign-compass ← 配置した場所に変更します。
```

3.3 起動

- (1) jp-co-nextdesign-compass¥bin¥compass.bat を起動します。
(例) エクスプローラからアイコンをダブルクリックします。

3.4 アンインストール

- (1) jp-co-nextdesign-compass フォルダを削除します。
(例) エクスプローラで jp-co-nextdesign-compass フォルダを削除します。

4. Compass Light のデータ管理と複数ユーザーでの利用

4.1 データ管理

Compass Light が使用するデータファイルは、jp-co-nextdesign-compass¥bin の下の、COMPASS.DAT、COMPASS.BAK、COMPASS.TMP の3つです。それぞれの役割は次の通りです。

4.1.1 COMPASS.DAT

最新状態のユースケースモデルが格納されています。

他の PC にユースケースモデルを移動／コピーしたい場合は、COMPASS.DAT を移動／コピーします。

このファイルのサイズが大きくなると、稼動条件(メモリサイズなど)によっては、起動時に「データのバージョンが違います」というメッセージが表示され、使用できなくなることがあります。

プロジェクト毎など、別々の COMPASS.DAT を使い分けることをお奨めします。

ただし、2つ以上の COMPASS.DAT を結合することはできません。

4.1.2 COMPASS.BAK

Compass を起動した時点の COMPASS.DAT の内容をバックアップ保存したものです。

起動するごとに COMPASS.DAT の内容で上書きされます。

4.1.3 COMPASS.TMP

ファイル(F)メニューの「上書き保存する」毎に COMPASS.DAT の内容で上書きされます。

COMPASS.BAK と同様、目的はバックアップ用です。

4.1.4 バックアップ方法

COMPASS.DAT、COMPASS.BAK、COMPASS.TMP を別の場所に保存してください。(エクスプローラなどでコピー)

4.1.5 リカバリー方法

jp-co-nextdesign-compass¥bin ¥COMPASS.DAT を、保存していた COMPASS.DAT で上書きします。または、COMPASS.BAK、COMPASS.TMP を COMPASS.DAT にリネームすることで保存時点の内容に戻すことができます。(エクスプローラなどでコピー／リネーム)

4.1.6 新規作成

新規にユースケースモデルを作成したい場合は、jp-co-nextdesign-compass¥bin フォルダの下に COMPASS.DAT がない状態で Compass を起動します。新しい COMPASS.DAT が自動的に作成されます。

4.2 複数ユーザー利用

複数ユーザーで同じユースケースモデルを利用する場合、次の2つの方法があります。

(1) COMPASS.DAT をネットワーク共有します。

ただし、ローカルにある COMPASS.DAT を使用するユーザーは更新可能ですが、リモートにある COMPASS.DAT を使用するユーザーは参照のみ可能です。

compass.properties の COMPASS_DATA=**compass.data** の場合は、ローカルと判定されますが、COMPASS_DATA=**D:¥**compass.dat の場合は、非ローカルと判定され、更新操作はできません。なお、リモートの COMPASS.DAT を参照する場合に、ローカルにある COMPASS.DAT を削除する必要はありません。

(例)

コンピュータ名名 hostname の共有フォルダー名 share にある COMPASS.DAT を参照する場合

COMPASS_DATA=¥¥¥¥hostname¥¥share¥¥jp-co-nextdesign-compass¥¥compass.dat と指定します。

※1つの¥記号を指定するためには¥¥と指定する必要があるため、¥記号の数が2倍になっています。

(2) COMPASS.DAT のコピーを使用します。

ただし、別々に更新された2つの COMPASS.DAT を統合することはできません。

5. Compass Pro のインストール、起動、アンインストール

5.1 必要なソフトウェア

- (1) Compass Pro 本体 (jp-co-nextdesign-compass.lzh を <http://www.nextdesign.co.jp/> から入手)
- (2) Firebird 1.5.1 (入手方法は後述)
- (3) JAVA 1.4.2 以降 (<http://java.sun.com/> から入手)

5.1.2 動作確認済みの環境

- (1) Windows XP Professional SP1 + Firebird 1.5.1 + JAVA 1.4.2_04
- (2) Windows 2000 SP4 + Firebird 1.5.1 + JAVA 1.4.2_04

5.2 インストール

5.2.1 概要

- (1) コンパスを任意の場所に解凍します。
- (2) jp-co-nextdesign-compass¥bin¥setenv.bat を、テキストエディタで編集します。(後述)
- (3) Firebird をインストールします。(後述)
- (4) 接続先情報を変更します。(後述)

5.2.2 jp-co-nextdesign-compass¥bin¥setenv.bat の編集

この作業は、コンパスを C:¥jp-co-nextdesign-compass 以外の場所に置いた場合のみ必要です。
テキストエディタで setenv.bat を開き、次の場所を変更してください。

```
rem -----
rem (1) COMPASS_HOME を設定 ここを変更してください！ 変更箇所(1/1)
rem -----
set COMPASS_HOME=C:¥jp-co-nextdesign-compass ← 配置した場所に変更します。
```

5.2.3 Firebird のインストール

- (1) Firebird を入手(ダウンロード)します。
http://sourceforge.net/project/showfiles.php?group_id=9028&package_id=29791 から
Firebird-1.5.1.4481-Win32.exe をダウンロードします。
- (2) Firebird をインストールします。
ダウンロード保存した Firebird-1.5.1.4481-Win32.exe を起動します。(ダブルクリックなどで起動します)
※本書では、全てデフォルトでインストールを前提とします。

5.2.4 接続先情報の変更(1/3)変更が必要なケース

この作業は、次に該当する場合に必要です。

- (1) コンパスの場所が C:¥jp-co-nextdesign-compass と異なる場合
- (2) クライアント側の場合(使用する Firebird が別のマシンにインストールされている場合)

5.2.5 接続先情報の変更 (2/3) 変更するファイル名

- (1) jp-co-nextdesign-compass¥Config¥hibernate.properties ファイル
- (2) jp-co-nextdesign-compass¥Config¥hibernate.cfg.xml ファイル

5.2.6 接続先情報の変更 (3/3) 変更箇所

各ファイルの“//localhost/C:/jp-co-nextdesign-compass/compass.fdb”の部分を、次の要領で変更します。

(例) コンパスを D:¥jp-co-nextdesign-compass に配置した場合は

//localhost/D:/jp-co-nextdesign-compass/compass.fdb に変更

(例) データベースサーバー Nextdesign1 を使用する場合は

//Nextdesign1/C:/jp-co-nextdesign-compass/compass.fdb に変更

5.3 起動

- (1) jp-co-nextdesign-compass¥bin¥compass.bat を起動します。

(例) エクスプローラからアイコンをダブルクリックします。

5.4 アンインストール

- (1) Firebird を停止します。

コントロールパネル → Firebird Server Manager → Stop

- (2) Firebird を削除します。

コントロールパネル → アプリケーションの追加と削除 → Firebird を選択して削除

- (3) jp-co-nextdesign-compass を削除します。

エクスプローラでフォルダーを削除します。

6. Compass Pro のデータ管理と複数ユーザーでの利用

6.1 データ管理

Compass Pro は、O/R マッピングフレームワーク Hibernate と RDBMS として Firebird を使用します。
MySQL など他の RDBMS を希望される場合はお問い合わせください。

6.1.1 バックアップ方法

jp-co-nextdesign-compass¥COMPASS.FDB を別の場所に保存します。(エクスプローラなどでコピー)

6.1.2 リカバリー方法

バックアップしていた COMPASS.FDB を、jp-co-nextdesign-compass 直下にコピーします。(エクスプローラなどでコピー)

6.1.3 新規作成

全く新しくユースケースモデルを作成する場合は、
jp-co-nextdesign-compass¥COMPASS.FDB を別の場所に退避した後、
jp-co-nextdesign-compass¥newdb 直下の COMPASS.FDB (空のデータベースファイル) を
jp-co-nextdesign-compass 直下にコピーして使用します。

6.2 複数ユーザー利用

同時に複数のユーザーがデータの追加、更新を行った場合、データの整合性は保障されません。しかし、同時に更新可能なユーザー数を、完全に1つにする制限は設けておりません。ユーザー自身の運用管理(例えば、全く関連のない別々のユースケースに限り、複数のユーザーが並行して編集するなど)においてのみ、複数ユーザーによる追加、更新ができるようになっています。参照ユーザーに制限はありません。

7. Compass 設定ファイル

Compass が使用する設定ファイルについて説明します。

7.1 compass.bat

起動用 BAT ファイルです。通常は変更する必要はありません。ただし、ユースケース記述の数が大きくなった場合など、①の部分を以下の様に変更することができます。

7.1.1 通常の内容

```
call setrunenv.bat
if "%COMPASS_HOME%"==" " GOTO LABEL_END
cd %COMPASS_HOME%\bin
java -Djava.library.path=%ECLIPSE_PLUGINS_WIN32%\os\win32\x86 .....①
jp.co.nextdesign.compass.studio.ui.CmCompassStudio > %COMPASS_HOME%\compass.log
:LABEL_END
```

7.1.2 ①の変更例（-Xmx256m オプションを追加）

```
java -Djava.library.path=%ECLIPSE_PLUGINS_WIN32%\os\win32\x86 -Xmx256m
```

-Xmx オプションについては JAVA サイトの情報源などを参照してください。

（注意）①の行と次の行の間に改行を入れないで下さい。ここでは表示上の都合で改行しています。

7.2 compass.properties

Light ではデータファイル (COMPASS.DAT) の場所を指定するファイルです。Pro では内容は参照しませんが、ファイル自体は削除しないでください。

7.2.1 Compass Light の場合

```
DATA_FILE_NAME=compass.dat
```

「複数ユーザー使用」の章を参照してください。

7.3 setenv.bat

jp-co-nextdesign-compass のインストール先を設定します。

8. Compass で使用する用語

ユースケースの詳細を表すユースケース記述については、UML 仕様の中にはありません。ツールや開発プロセスによって異なる用語が使用されることもあります。ここでは Compass で使用しています用語について説明します。

8.1 プロジェクト

開発プロジェクトに相当します。Compass をインストール後、最初に起動するとデフォルトのプロジェクト(名前は「プロジェクト1」)が自動的に作られます。

8.2 パッケージ

UML のパッケージに相当します。関係のあるユースケースを1つのパッケージに入れることでユースケースモデルが分かりやすくなります。ユースケースを入れるパッケージ構成とクラスを入れるパッケージ構成が一致するとは限りません。

8.3 ユースケース

UML のユースケースに相当します。ユースケース同士の関係として拡張と包含が使用できます。

8.4 アクターグループ

ユースケース毎にひとつのアクターグループが存在します。アクターグループはひとつのユースケースと関連をもつアクターの集合です。

8.5 アクター

UML のアクターに相当します。名前と説明、番号を追加できます。番号はアクター一覧などの表示順の決定に使用されます。

8.6 事前条件

事前条件は条件の集合で、ユースケース毎に1つ存在します。事前条件は、このユースケースが開始される時に必要なシステムの状態(条件)を示します。

8.7 事後条件

事後条件は条件の集合で、ユースケース毎に1つ存在します。事後条件は、このユースケースが終了した時に保証されるシステムの状態(条件)を示します。

8.8 シナリオ

ひとつのユースケースの開始と終了の間には複数のルートがあります。この一つひとつのルートがシナリオです。シナリオには主シナリオと副シナリオがあります。ひとつのユースケースはひとつの主シナリオと複数の副シナリオを含みます。

8.9 主シナリオ

分岐やエラーを含まない正常系だけのルートが主シナリオです。最もシンプルなユースケースは、ひとつの主

シナリオで構成されます。

8.10 副シナリオ

主シナリオだけではユースケースを十分に記述できないことがあります。分岐やエラー時の処理などがある場合です。これらも簡単なものであれば(後述の)代替パスを使用して記述することもできますが、代替パスだけでは複雑すぎて、全体の記述が分かり難くなる場合があります。このような場合には、主シナリオとは別に独立したシナリオとして副シナリオを追加します。

8.11 パス

パスは順序を持ったステップの集まりです。パスには基本パスと代替パスがあります。

ひとつのシナリオは、ひとつの基本パスと複数の代替パスで構成されます。もっともシンプルなシナリオはひとつの基本パスのみで構成されます。

8.12 ステップ

ステップは短い文字列で、事前条件や事後条件の内容、基本パスや代替パスの内容を構成する基本要素です。基本パスや代替パスを構成するステップには、単純ステップ、包含ステップ、拡張ステップがあります。

8.12.1 単純ステップ

文字列のみを含むステップです。事前条件や事後条件を構成するステップも単純ステップです。

8.12.2 包含ステップ

包含場所を示すステップです。包含ユースケースと関連を持ちます。

8.12.3 拡張ステップ

拡張場所を示すステップです。拡張点の名前と拡張ユースケースとの関連を持ちます。

9. Compass ユースケースの構成

Compass ではユースケースの構成を次のようにパターン化しています。 ユースケースを作成すると、◎印の要素は必須要素として自動的に追加されます。○印、△印の要素は、任意に追加される要素です。

◎ユースケース

.....◎アクター (アクターグループ)

.....○アクター

.....◎事前条件

.....○条件文

.....◎主シナリオ

.....◎基本パス

.....○ステップ (単純ステップ / 包含ステップ / 拡張ステップ)

.....△代替パス

.....△ステップ (単純ステップ / 包含ステップ / 拡張ステップ)

.....△副シナリオ

.....△基本パス

.....△ステップ (単純ステップ / 包含ステップ / 拡張ステップ)

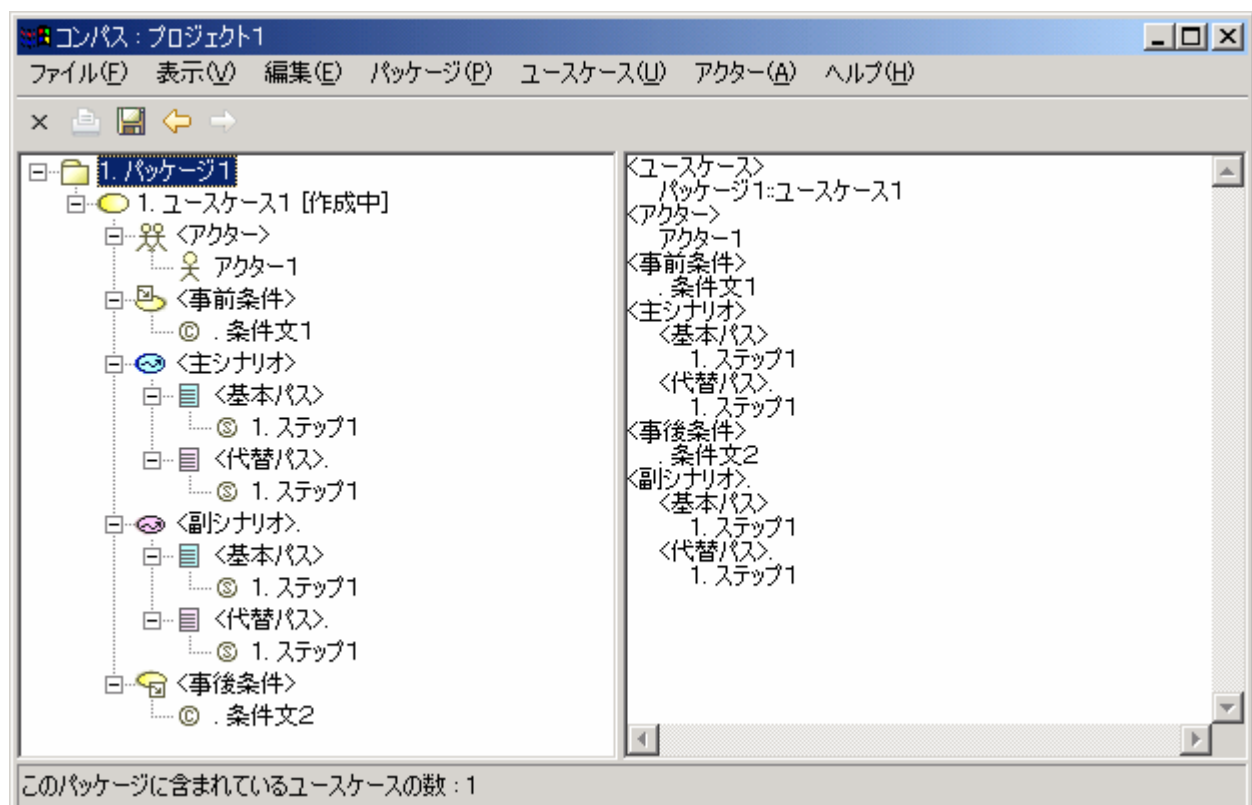
.....△代替パス

.....△ステップ (単純ステップ / 包含ステップ / 拡張ステップ)

.....◎事後条件

.....○条件文

図: Compass ユースケースの構成

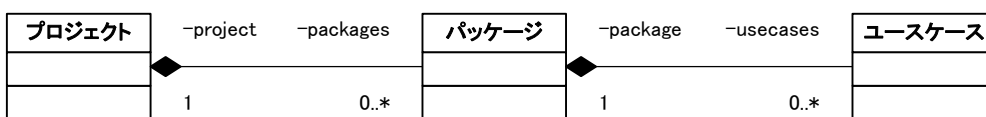


10. 操作概要

Compass は他の GUI ベースのツールなどと同様の感覚で操作して頂けるようになっています。そのため、詳細な操作マニュアルは用意しておりません。この章では、Compass を初めてお使いになる際に、予測される一般的な操作の手順についてご説明します。

初めて Compass を起動すると、初期状態として1つのプロジェクトと1つのパッケージが登録されています。名前はそれぞれ、「プロジェクト1」と「パッケージ1」です。Compass を使うためには1つ以上のプロジェクトが登録されていなければなりません。また、ユースケースを登録するためには必ずパッケージが必要です。そのため、初期状態として各1つのプロジェクトとパッケージが登録されています。プロジェクト、パッケージ、ユースケースの関連は下図の通りです。

図: Compass プロジェクト、パッケージ、ユースケース UML クラス図



10.1 番号について

以下の操作で、各要素の入力項目として「番号」があります。この番号は表示順を決めるために使用されます。必須の入力項目ではなく、後から設定することも、自動で番号を振りなおすこともできます。ただし、「条件」や「ステップ」では、評価順序や実行順序としての意味を持つことになります。(Compass のユースケースモデルが実行できるということではありません)

10.2 プロジェクト名を編集する

操作手順: 「ファイル」→「プロジェクト」→「現在のプロジェクトの名前を編集する」

10.3 パッケージ名を編集する

操作手順: パッケージを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」→「パッケージを編集する」

10.4 アクターを追加する

「アクター」→「アクターモデルを編集する」→「編集」→「新しいアクターを作成する」

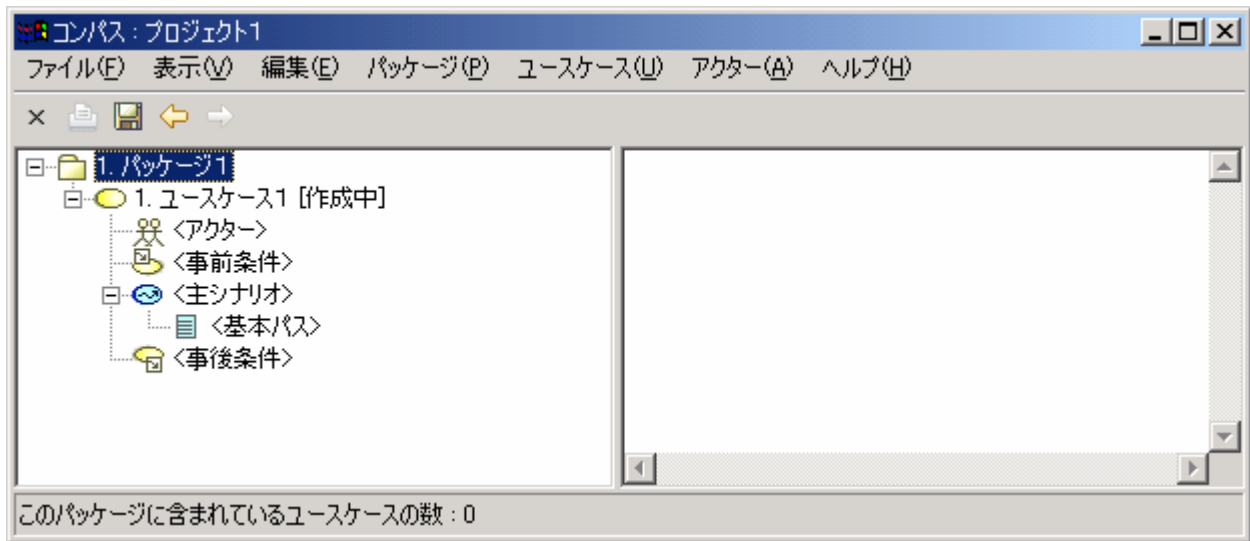
10.5 ユースケースを追加する

パッケージを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」→「ユースケースを追加する」

ユースケースを追加すると、以下の各オブジェクトが初期状態として追加されています。

- (1) アクター
- (2) 事前条件
- (3) 主シナリオ
- (4) 基本パス
- (5) 事後条件

図:新しいユースケースを追加した直後の状態



10.6 アクターを設定する

操作手順: アクターを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「アクターを追加する」

10.7 事前条件を追加する

操作手順: 事前条件を選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「事前条件を追加する」

10.8 ステップを追加する

操作手順: 基本パス or 代替パスを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「ステップを追加する」 → ステップの種類を選択する

10.9 事後条件を追加する

操作手順: 事後条件を選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「事後条件を追加する」

10.10 副シナリオを追加する

操作手順: ユースケースを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「副シナリオを追加する」

10.11 代替パスを追加する

操作手順: 主シナリオ or 副シナリオを選択(左クリック) → 右クリック or「編集」 → 「代替パスを追加する」

11. ダイアログメッセージの意味と対応

11.1 「ライセンスの期限が切れました。」

(1) 原因

試用期間 (Compass 起動回数の上限) を超えました。

(2) 対応

製品版の key.compss を購入してください。

11.2 「ライセンスがありません。」

(1) 原因

jp-co-nextdesign-compass¥bin¥license.compss ファイルがありません。

(2) 対応

適正な key.compss を置いてください。

11.3 「データのバージョンが違います。」

(1) 原因

データ互換のない Compass が使用されました。

(2) 対応

データ作成時に使用していた Compass を使ってください。

11.4 「java.io.IOException.」

(1) 原因

Compass でファイルのクローズ時にエラー (ファイルシステムレベル) が発生しました。

(2) 対応

COMPASS.DAT, COMPASS.BAK, COMAPPS.TMP を一旦退避し (別のフォルダーにコピーし)、サイズ、更新時間などを確認の上、正常と思われるファイルをお使いください。各ファイルとも拡張子を DAT に変更することで Compass データとして使用できます。正常であることの確認が困難な場合は、お客様でバックアップ保存されたファイルに戻してください。詳細は、「Compass のデータ管理」を参照して下さい。

11.5 「このアクターは使用されています。」

(1) 原因

ユースケースに関連しているアクターを削除しようとした。

(2) 対応

ユースケースに関連中のアクターを削除することはできません。削除したいアクターとユースケースの関連をすべて削除してください。

11.6 「同じユースケースは包含できません。」

(1) 原因

自分自身を包含しようとした。

(2) 対応

自分自身以外のユースケースを指定してください。

11.7「同じユースケースは拡張できません。」

(1) 原因

自分自身を拡張しようとしてしました。

(2) 対応

自分自身以外のユースケースを指定してください。

11.8「同じ名前のプロジェクトが存在します。」

(1) 原因

登録済みのプロジェクトと同じ名前のプロジェクトを作成しようとしてしました。

(2) 対応

登録されていない名前にしてください。

11.9「同じ名前のアクターが存在します。」

(1) 原因

登録済みのアクターと同じ名前のアクターを作成しようとしてしました。

(2) 対応

登録されていない名前にしてください。

12. ステータスバーメッセージの意味と対応

12.1「選択されたオブジェクトの数：」

(1) 意味

Compass スタジオ画面のツリービューで選択されているオブジェクトの数です。複数のオブジェクトを選択可能な操作はありません。

12.2「終了処理中です.....」

(1) 意味

Compass の終了処理中です。登録されたユースケースの数などが増えると、この処理に時間がかかる場合があります。

12.3「処理中です.....」

(1) 意味

主に「包含・拡張ユースケースを表示する」などリスト表示系の処理中であることを示します。登録されたユースケースの数などが増えると、表示までに時間がかかる場合があります。

12.4「保存中です.....」

(1) 意味

データの保存中であることを示します。登録されたユースケースの数などが増えると、この処理に時間がかかる場合があります。

12.5「このパッケージに含まれているユースケースの数：」

(1) 意味

パッケージを選択すると、そのパッケージに含まれているユースケースの数が表示されます。

12.6「このユースケースに含まれているシナリオの数：」

(1) 意味

ユースケースを選択すると、そのユースケースに含まれているシナリオの数が表示されます。

12.7「このシナリオに含まれているパスの数：」

(1) 意味

シナリオを選択すると、そのシナリオに含まれているパスの数が表示されます。

12.8「このパスに含まれているステップの数：」

(1) 意味

パスを選択すると、そのパスに含まれているステップの数が表示されます。

12.9「このアクターグループに含まれているアクターの数：」

(1) 意味

アクターグループを選択すると、そのパッケージに含まれているアクターの数が表示されます。

12.10「この事前条件に含まれている条件の数：」

(1) 意味

事前条件を選択すると、その事前条件に含まれている条件の数が表示されます。

12.11「この事後条件に含まれている条件の数：」

(1) 意味

事後条件を選択すると、その事後条件に含まれている条件の数が表示されます。

13. ログ情報

使用中に問題が発生した場合、jp-co-nextdesign-compass¥compass.log にログ情報(テキスト形式)があります。

14. ライセンス

Compass の試用期間はインストール後、起動回数が50回までです。これを超えると起動できなくなります。製品購入後に製品ライセンスを入手することができます。これを jp-co-nextdesign-compass¥bin の下に配置することで、継続してご使用いただけます。再インストールの必要はなく、データもそのままご使用できます。

15. バージョン情報など

Compass シリーズの最新バージョン情報などは、<http://www.nextdesign.co.jp>を参照ください。